

免許状教科	中学校一種（社会科）、高等学校一種（地理歴史科、公民科、商業科）		
科目名	教育相談の理論と 方法	科目分類	教職科目
			経済学科 ■必修 □選択
英文表記	Theories and Methods of School Counseling	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	瀬戸 泰	修得単位	2単位
		実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用
授業のテーマ	教育相談は、児童生徒等の発達の状態や置かれた環境を踏まえたうえで、個々の心理的側面や教育的課題を適切に把握し、支援を行っていくものである。本授業では、カウンセリングを含む教育相談に関する基礎的な知識や技法を学び、教育相談の全体像を理解することを目的とする。		
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 教育相談の実務を進めるうえで必要となる基礎的な知識・手法を理解する。 3. 組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。		
授業概要	座学を中心に、教育相談に関する基本的な内容を説明します。単に知識を紹介するだけでなく、具体事例等を織り交ぜ、理論と実践を往復しながら学べるような視点を意識して授業を行います。		
授業計画			
第1回	イントロダクション	(授業の概要、教育相談とは、教育相談と生徒指導)	
第2回	教育相談の種類と体制①	(教育相談の種類、教育相談の体制、学内連携・学外連携)	
第3回	教育相談の種類と体制②	(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、チーム学校)	
第4回	教育相談に関する心理学的技法①	(アセスメント、個人と環境、児童・青年期にみられやすい精神疾患)	
第5回	教育相談に関する心理学的技法②	(カウンセリングとは、薬物療法、来談者中心療法)	
第6回	教育相談に関する心理学的技法③	(傾聴、受容、聴き方のポイント、ペアワーク)	
第7回	教育相談に関する心理学的技法④	(行動主義、行動療法)	
第8回	教育相談に関する心理学的技法⑤	(認知療法、認知行動療法)	
第9回	発達障害	(発達障害とは、発達障害と脳、カサンドラ症候群、支援のポイント)	
第10回	家族心理学	(家族関係の歪みとしての症状、家族療法、解決志向アプローチ)	
第11回	いじめ問題の理解と対応	(いじめとは、いじめの構造、いじめ防止対策推進法、組織的対応)	
第12回	不登校の理解と対応	(不登校とは、不登校の5類型、不登校の対応、教育機会確保法)	
第13回	非行問題の理解と対応	(非行少年の定義、非行の複合的要因、非行への対応)	
第14回	発達段階と発達課題	(様々な発達段階理論、発達の最近接領域、ピグマリオン効果)	
第15回	教師のメンタルヘルス	(教師とストレス、保護者対応、バーンアウトを防ぐ)	
第16回	定期試験		
授業時間外の 学習	学習内容の定着を図るため、毎回、復習を行うようにしてください（1.5時間程度）。		
履修条件 受講のルール	履修のための条件はありません。		
テキスト	毎回、講義用レジュメを配布します。		
参考文献・資料	藤原和政ほか（編）『学校現場で役立つ教育相談:教師をめざす人のために』（北大路書房、2020）		
成績評価の方法	試験 70%、毎回のコメントシート 30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月曜日もしくは火曜日の 10：30 ～ 12：00		
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
学生への メッセージ	本授業は教職課程に関する必修科目ですが、教職に限らず、子ども・児童生徒に関わっていく上で知っておくべき内容が盛り込まれているものと思います。前向きに吸収していただけたらと思います。		

